



Apple Watch Series 6 スクリーンの交換

このガイドを参照して、Apple Watch Series 6の破損したRetina LTPO...

作成者: Dominik Schnabelrauch



はじめに

このガイドを参照して、Apple Watch Series 6の破損したRetina LTPO OLED スクリーン(別名ディスプレイアセンブリ)を交換します。

ディスプレイを交換すると、**Apple Pay** で問題が発生することがあります。可能であれば、この問題の発生する可能性を減らすために、交換前にApple Payのアカウント情報をすべて削除し、新しいディスプレイを取り付けた状態で再登録してください。

このガイドではセルラー/LTEモデルの修理方法を扱っていますが、GPSのみのモデルの修理作業も類似しています。

デバイスを再組み立てする際は、コンポーネントを密封するために交換用の接着剤が必要です。

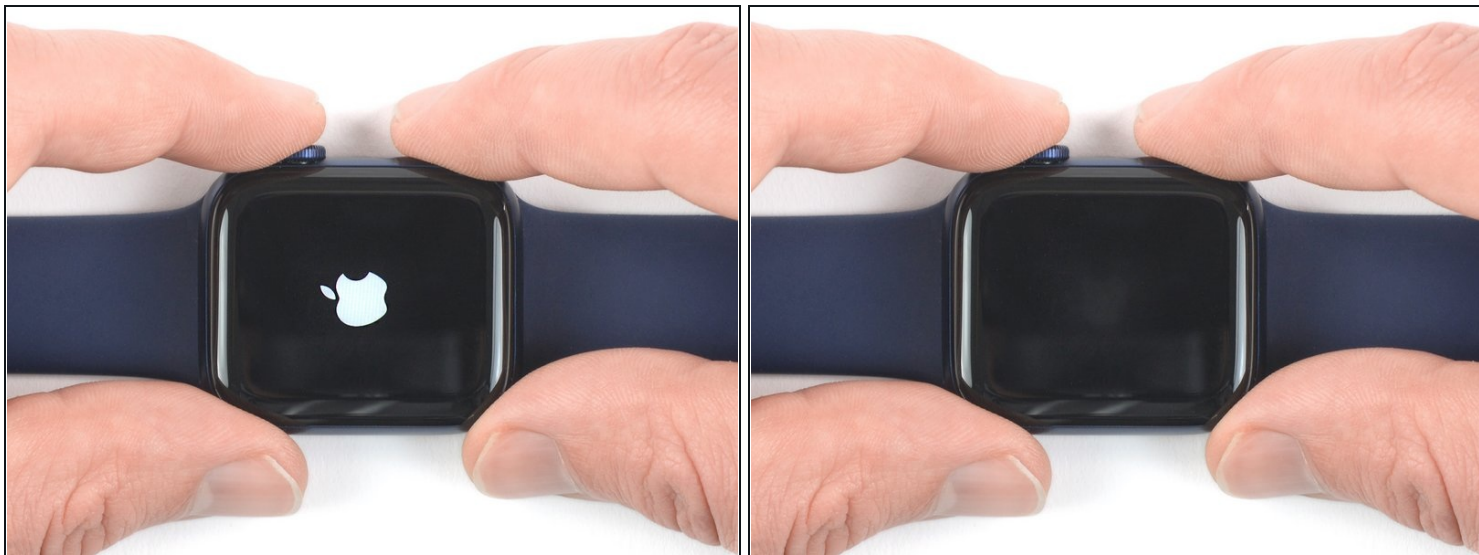
ツール:

- [iOpener](#) (1)
- [iFixit開口用ピック\(6枚セット\)](#) (1)
- [Curved Razor Blade](#) (1)
- [保護メガネ](#) (1)
- [ESD安全グローブ](#) (1)
- [ピンセット](#) (1)
- [スパッジャー](#) (1)
- [トライポイントY000 ドライバー](#) (1)

部品:

- [プレカット接着カード](#) (1)
- [Apple Watch \(44 mm Series 6\) スクリーン](#) (1)
- [Apple Watch \(40 mm Series 6\) スクリーン](#) (1)

手順 1 — Watchの電源を切ります



- 作業を始める前に、Watchの電源を切ってください。
- ① タッチスクリーンが壊れていて、Watchの電源を切れない場合は、[こちらの代替方法](#)で電源を切ってください。

手順 2 — 安全ガイド



- スクリーンとWatch本体の間は非常に薄いため、鋭利なブレードが両側を乖離するために必要です。作業に進む前に、次の警告内容をよく読んでください。

⚠ ナイフから完全に手を保護してください。自信がない場合は、レザー製もしくはガーデニング用の防護用グローブを装着してください。

⚠ ナイフがスリップして怪我をしたり、Watchにダメージが入ってしまう可能性があるため、ブレードを使用する際は力を入れすぎないでください。

⚠ **保護用メガネ**を装着してください。ナイフもしくはガラスが壊れた場合、飛散することがあります。

- ① Watchバンドを必要に応じて装着するか、外してください。修理の際に、コントロールを取りやすい方法を取ってください。

手順 3 — ディスプレイ接着剤を温める



- [iOpenerを準備して](#)(もしくはヘアドライヤーやヒートガン)、Watch表面を温めて、ディスプレイの接着剤を柔らかくします。
- iOpenerをWatchの表面に少なくとも2分間当てて、スクリーンを温めます。

① ディスプレイの接着剤が柔らかくなるまで、iOpenerを複数回に渡って温めて、Watchに載せる作業を繰り返す必要があります。

手順 4 — ディスプレイの開口



- ディスプレイと外側ケースの間の薄い隙間に湾曲したブレードの先端を差し込みます。デジタルクラウン付近のディスプレイの短辺側から始めます。
- 隙間にしっかりと押し込みます。
- ブレードの先端を差し込めたら、ブレードを傾けてディスプレイをわずかに開口します。

手順 5



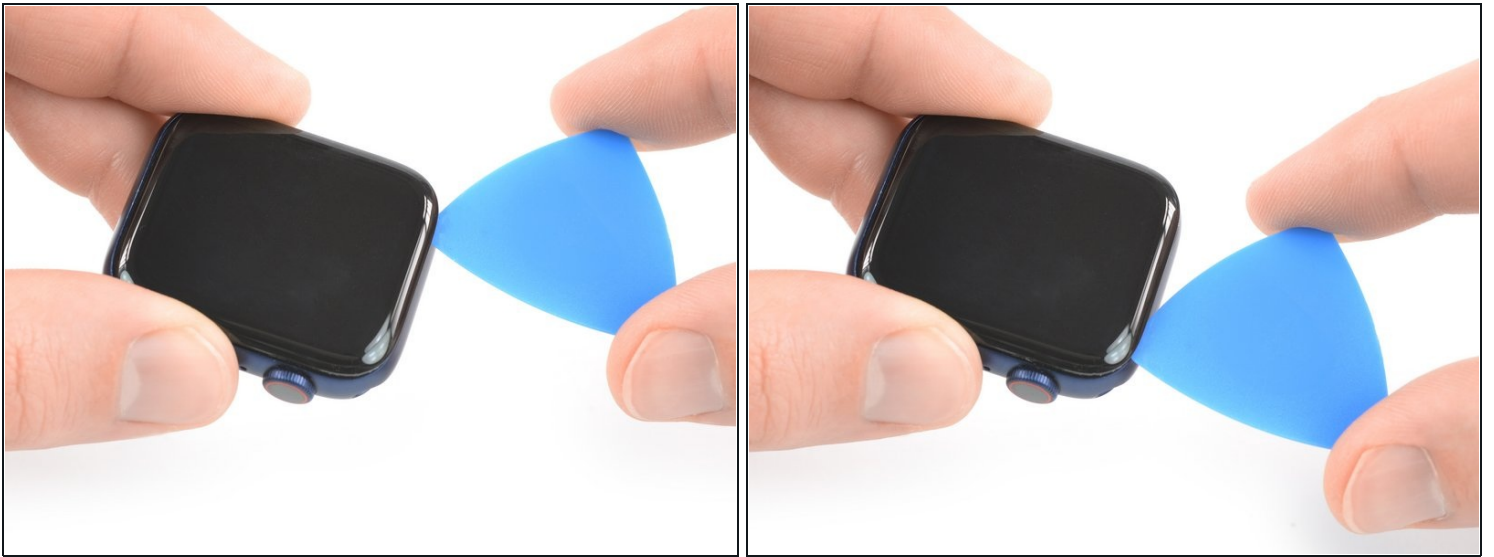
- 隙間に開口ピックを差し込みます。
- 開口ピックをWatchの短辺側に沿ってスライドして、接着剤を切開します。

手順 6



- 開口ピックをデジタルクラウンの反対側の長辺側に沿ってスライドし、コーナー周辺に回して、ディスプレイの接着剤を切開します。

手順 7



- 開口ピックをDigital Crown側の短辺に沿ってスライドし、残りの接着剤を切開します。

手順 8



- 開口ピックを使って残りの接着剤を全て切開して、デバイスを平らな作業台の上に載せます。

⚠ デジタルクラウン付近をスライスしないでください。ディスプレイケーブルにダメージを与えてしまいます。クラウン付近をスライドしなければならない時は、2mm以上深くピックを差し込まないでください。

- 開口ピックをデジタルクラウンの反対側のディスプレイに差し込みます。
- 開口ピックを捻って、ディスプレイをWatchのケースから緩めます。

⚠ ディスプレイを外さないでください。Watchのアセンブリと繋がっている状態です。

手順 9



⚠ ディスプレイを開く際に、ケーブルを引っ張らないようにご注意ください。

- ディスプレイを持ち上げて、デジタルクラウン側にゆっくりと引き上げます。
- ディスプレイを上部に開きます。

手順 10 — バッテリーの接着剤を柔らかくします



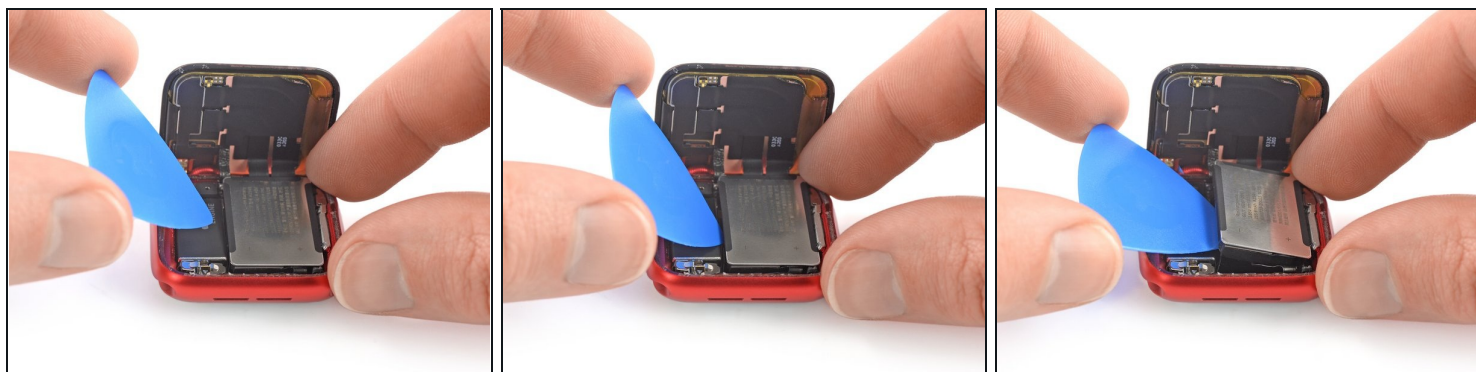
- [iOpenerを準備して](#)(もしくはヘアドライヤーやヒートガン)、約2分間Watch表面を温めて、ディスプレイの接着剤を柔らかくします。

手順 11 — どちらの手順に従うか確認してください



- ① 40mmと44mmモデルのバッテリーの取り出し方が、ここから若干異なります。
- 40mmモデルのバッテリーを交換する場合は、[この手順](#)を続けてください。
 - 44mmモデルのバッテリーを交換する場合は、[この手順](#)を続けてください。

手順 12 — バッテリーをこじ開けます



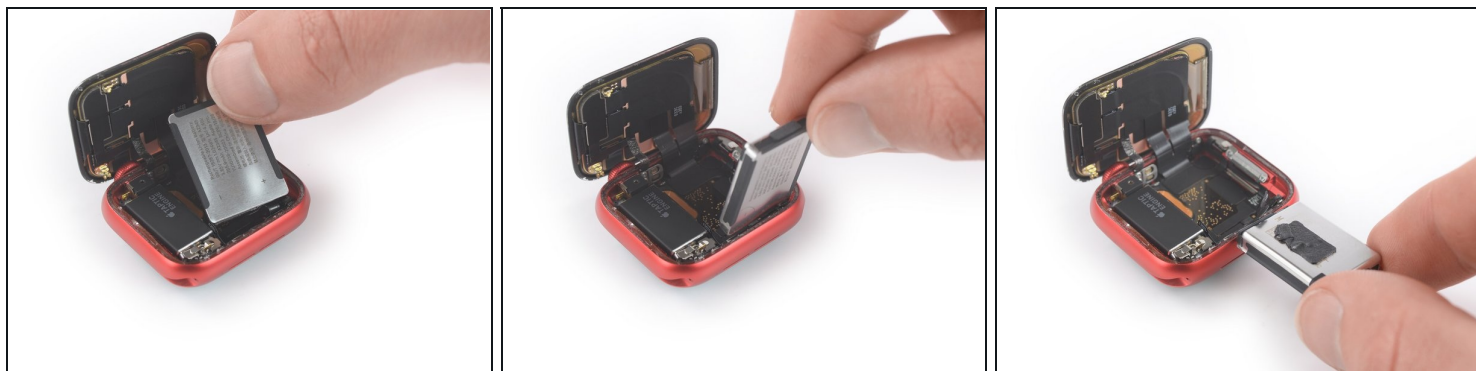
① 以下4つの手順は、**40mm**のApple Watch Series 6からバッテリーを取り外す方法です。

- バッテリーとTaptic Engineの間に、開口ピックを挿入します。
- 一定の力でゆっくりとバッテリーを持ち上げ、メインボードに固定されている接着剤からバッテリーを分離します。

⚠ バッテリーに穴を開けたり、変形させたりしないように注意してください。

⚠ まだバッテリーを完全に取り外そうとしないでください。アセンブリと繋がったままの状態です。

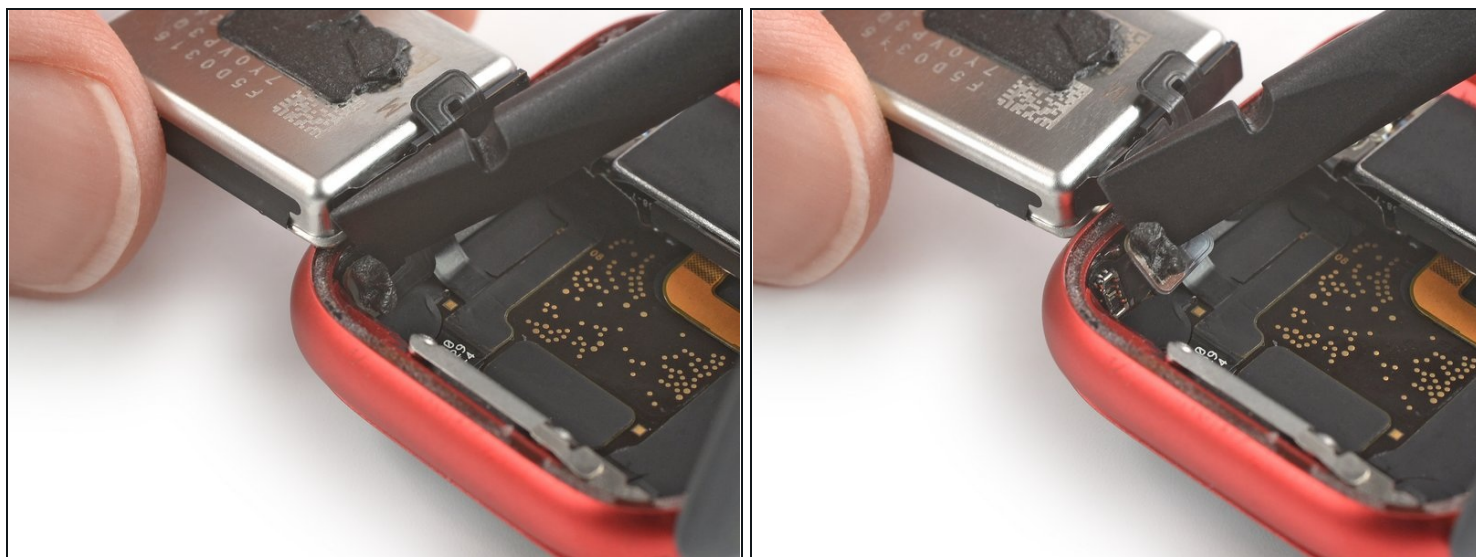
手順 13 — バッテリーを動かします



⚠ バッテリーフレックスケーブルは十分な長さがあるので、バッテリーをケースの外に置くことができます。バッテリーを底から持ち上げる際に、ケーブルに負担がかからないようにしてください。

- 慎重にバッテリーを持ち上げて、Watch本体のすぐ側に配置します。

手順 14 — バッテリーの接続を外します



- スパッツァーの平面側先端を使って、バッテリーコネクタをこじ開けて、接続を外します。

手順 15 — バッテリーを取り出します

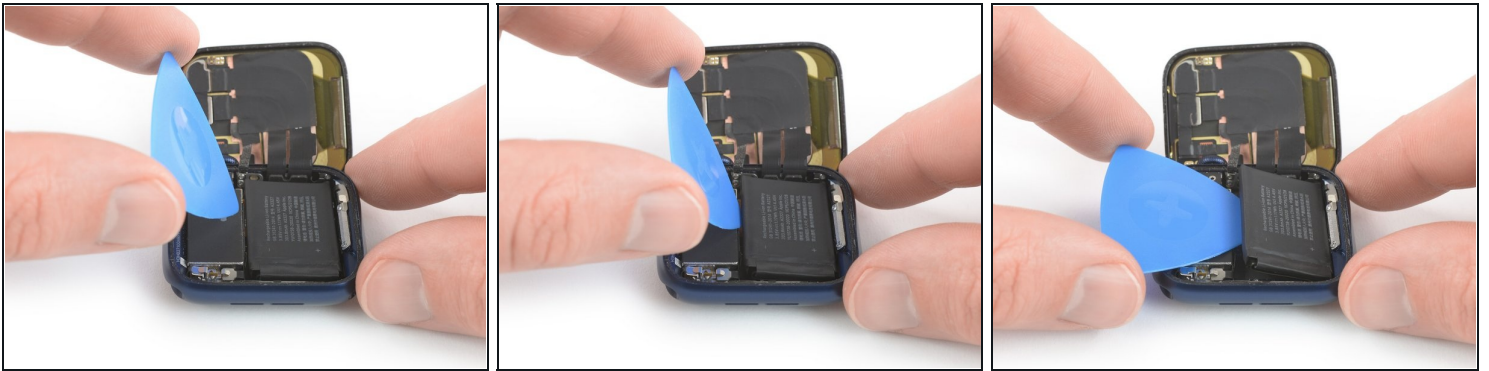


- バッテリーを取り出します。

⚠ 破損や変形したバッテリーの再利用は、安全上の問題がありますので、絶対にやめてください。

- ① 再組み立て時に古いバッテリーを再インストールする場合、古い接着剤を再利用してバッテリーを固定することができます。
- ② あるいは、高濃度のイソプロピルアルコールと糸くずの出ない布で古い接着剤を取り除き、[Tesa 61395](#)などの両面テープの小片や、[E6000](#)などの液体接着剤を注入して固定します。

手順 16 — バッテリーをこじ開けます



- 次の4つの手順では、44mmのApple Watch Series 6からバッテリーを取り外す方法です。
- 開口ピックをバッテリーとTaptic Engineの間に差し込みます。
- 一定の力をゆっくりと入れて、バッテリーを持ち上げながら、メインボードにバッテリーを固定している接着剤から乖離します。

⚠ バッテリーを変形させたり穴を開けないようにご注意ください。ダメージを与えてしまうと爆発したり引火の恐れがあります。

⚠ バッテリーを完全に取り出さないでください。まだWatchアセンブリと繋がっている状態です。

手順 17 — バッテリーを緩めます



⚠ バッテリーのフレックスケーブルは、次の手順の作業中、バッテリーをWatchケースから取り出すのに十分な長さがありますが、バッテリーを持ち上げル時にプレッシャーを与えないようにご注意ください。

- バッテリーを慎重に持ち上げて、Taptic Engineと反対側のWatchケースの外に置いてください。

手順 18 — バッテリーコネクタのネジを外します



- 1.2mmトライポイント Y000ネジを1本外します。

手順 19



- ピンセットを使って、バッテリーコネクタを覆っているメタルシールドを取り出します。

手順 20



- スパジヤーの平面側先端を使って、バッテリーコネクタをこじ開けて、接続を外します。

手順 21 — バッテリーを取り出します

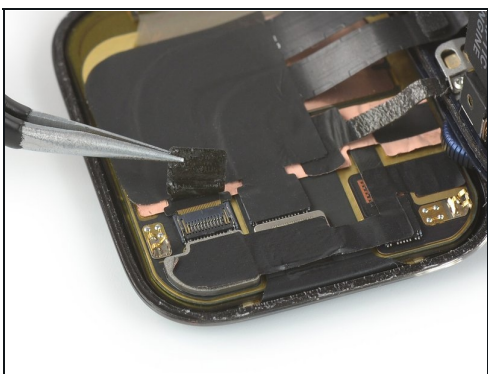
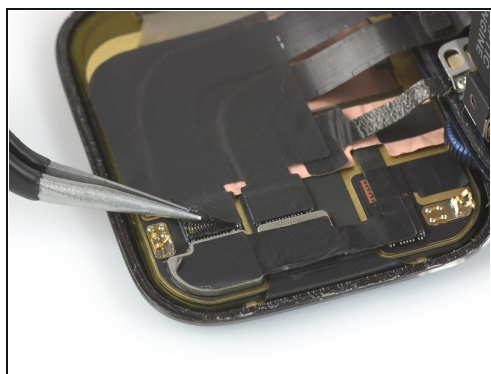


- バッテリーを取り出します。

⚠️ **ダメージが入っていたり変形したバッテリーを再利用しないでください。潜在的な危険性が潜んでいます。**

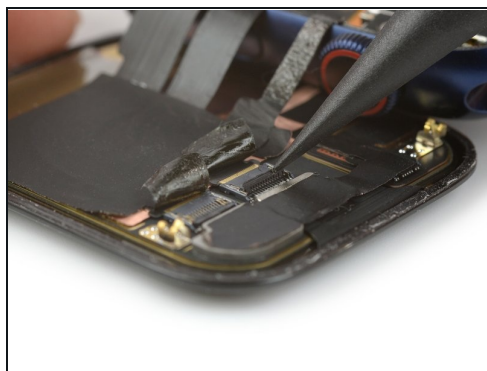
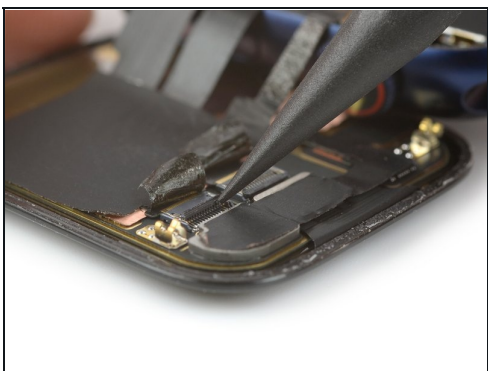
- ① 再組み立ての際に、バッテリーを再利用する場合は、バッテリーを固定している接着剤も再利用できます。
- ② または、高濃度のイソプロピルアルコールと糸くずの出ないマジックワイプなどで古い接着剤を取り除き、[Tesa 61395](#)などの両面テープや、[E6000](#)などの液体接着剤を少量使用します。

手順 22 — 保護用フィルムを剥がします



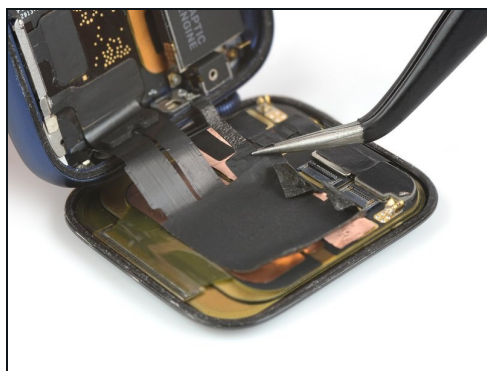
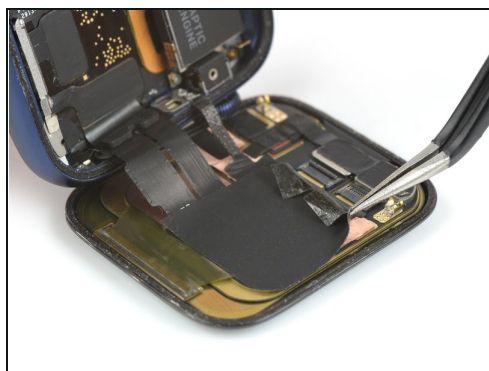
- ピンセットを使って、両側のディスプレイコネクタから黒い保護テープを慎重に剥がします。

手順 23 — ディ스플레이ケーブルを外します



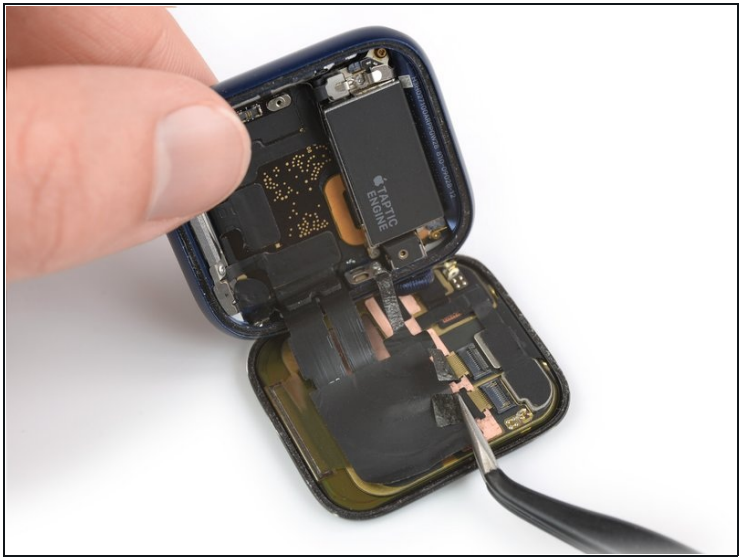
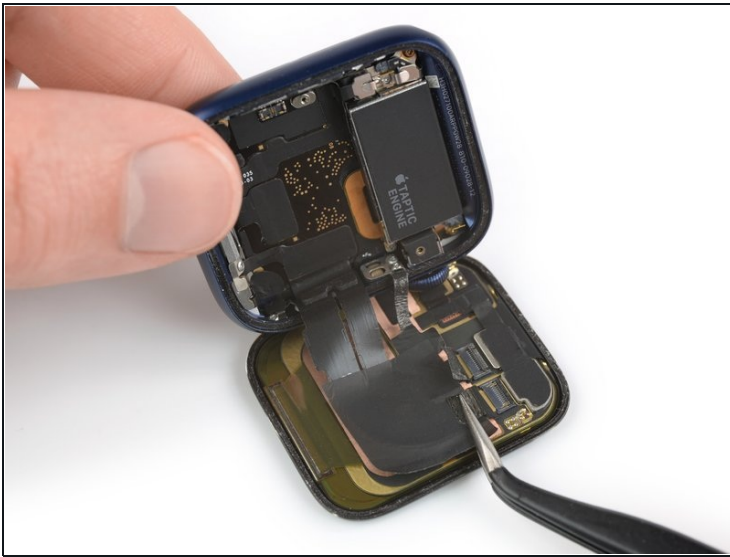
- スパッジャーの先端を使って、ディスプレイケーブル両側を固定しているZIFコネクタ上のロックバーをこじ開けます。

手順 24



- ピンセットを使って、ディスプレイと接地ケーブルをスクリーンの背面側に装着しているステッカーの端を剥がします。

手順 25



- ピンセットで、ZIFコネクタから両側のディスプレイケーブルを引き抜きます。

⚠ Watchのアセンブリを引っ張らないでください。ディスプレイケーブルを切断してしまう可能性があります。

手順 26 — スクリーンを取り出します



- Watchアセンブリからスクリーンを取り出します。

Apple Watch Series 6を再組み立てするには、バッテリーを再装着するために、このインストラクションを逆の順番に従って作業を進めてください。

高濃度(90%以上)のイソプロピルアルコールを綿棒に含ませて、Watchケース端とスクリーン上に残っている接着剤を綺麗に除去してください。

e-wasteを処理する場合は、[認可済みリサイクルセンターR2](#)を通じて廃棄してください。

修理が上手く進みませんか？トラブルシューティングとして、このモデルの[アンサーコミュニティ](#)を参照してください。